



東京歯科大学広報



辛卯（かのこのう）

平成23年1月

金子 譲学長年頭の挨拶

皆さん、明けましておめでとうございます。

今年の関東地方は快晴が続きまして、富士山が毎日見えていました。天気は非常に良かったのですが、今年も世情はなかなか大変という印象を多くの報道から受けました。短いお休みだったと思いますが、英気を養っていただけたと思います。

昨年は創立120周年の大還暦ということで、大学移転を除きました記念式典やその他の事業を終わりにまして、いよいよまた新しい東京歯科大学の幕を開けるのが、平成23年だと思っています。

2010年12月
2011年 1月
246号

本号の主な内容

- ・金子 譲学長年頭の挨拶 1
- ・「全球華人 口腔医学大会への参加と中国歯科界の現状」報告 16
- ・教職員への移転関係報告 (7)・(8) 19、21
- ・2010年の回想&2011年の抱負 22

【歯学部志願者減少の現状】

さて、現状はよくご存知のように、歯学部への志願者が激減しています。私立歯科大学全体の募集定員は約2,000名ですが、その2割が定員に満たない程の激減であります。総志願者数を見ますと4年位前から急激に減ってきています。一般の大学では15年位前からの十数年間は大学志願者の18歳人口が多いゴールデンエイジでしたが、一転して氷河期を迎えております。この状態は歯科大学も含めて、どの大学も予測しておりましたが、歯学部志願者がこれだけ減るといのは想定外と言えます。理由はいくつかありますが、その中の一つの大きな理由はやはり経済だと思います。それと資本投下した後の回収ができるかどうかという危惧が、歯科医院そのものにあります。この状態はかなり続くと予測しております。経済低迷に多少の脱却があっても、根本的にかつてのような好景気に沸くことはどうやら無さそうだとこのことですので、志願者減少対策は東京歯科大学としても喫緊の課題でございます。少子高齢化という社会構造に日本の現状がアダプトできなく、しかもその道筋がよくわからないところが、政治的に混迷をきたしているのであろうと思います。人口構造は変えることのできない現象ですから、この面での対応も極めて難しいだろうと思います。何れにしてもどうやらない材料はあまりないというのが世情だと思っています。

【歯科界の課題】

そして、大学関係者には2020年問題というのがございます。これは今から8年後になりますが、18歳人口が更に減少し始めます。それまではだいたい一定の120万人位でその中の5割が高等教育に進みまして、2020年には現在の約7割に減少し、さらに10年後は6割(約63%)になってしまいます。その中から歯科にどのくらい来てくれるかということですが、いろいろ考えても今のままで行ける道理がありませんので、20年、30年先を見た対策が今から必要だろうと思います。さらに、医科では2040年問題というのが出てきています。これは現在既に3年間で1,300余名の医学部学生の定員を増しております、しばらく医師増加の政策を継続しますと、30年後には医師過剰状況が生じ、医師の失業者さえも出てくるだろうと言われ始めました。医学部学生の定員拡大が続いている現状では、歯科希望の受験生もそちらに流れていく影響があります。さらに2040年には医師は歯科医療にも浸潤し出すだろうと私は考えています。法律的には歯科医師だけに許可された業務は3つですので、大きな問題が出てくると思います。従って、それまでに歯科界全体でそれに対応できる力をつけて行くことが課題だと思います。

【移転事業の円滑な進行】

東京歯科大学の今年度の目標は、やはり移転事業の円滑な進行であります。建築は計画通りに進んでおります。建築請負業者の選定は入札の結果をもとに1月の法人理事会で審議し評議員会で承認を得まして、2月19日にさいかち坂で起工式を行います。病院、リパーク跡地の建築も時期をそう違えずに行えると思います。着手しました後は時間の問題ですので、平成24年度の1年生が入ってくる新校舎は1年位で確実に出来上がる予定になっております。もうひとつのソフトの問題は各部署で石井拓男移転部会統括部長の下でご検討いただいた後、最終的には教授会上がってきますが、この面においても順調に進行しております。

【教育の質の充実】

次に受験生対策ですが、全国歯科大学・歯学部29校のうち17校は私立で、全体の75%が私立の学生です。17ある大学で定員不足のない大学は6校だけです。あとの11校は募集定員に満たず、しかも平均3割も満たなかったとの事です。歯学部離れが非常に進んでおり、昨年、一昨年からもより進んでいます。今年もそういう傾向になると予測しています。受験生離れを何とか食い止めたいと思ひまして、この対策として、多くの大学がやはり学納金を下げております。ある大学2校(1法人)は6年間の総額を4割程下げて、2,000万円を切っています。しかもそれは新入生からだけでなく、在生も該当さ

せるとの事で、かなり思い切った方策だと思います。学納金に全く手をつけない大学はわずかに3校しかありません。この3年間で大体どの大学でも多少の手直しをしています、東京歯科大学では教育の質を充実させていく方策をとります。即効的ではありませんが、質を着実に上げていく事で、確実に成果を出して行きたいと思っています。そしてその成果は数値で出ますので評価ができます。その一つは国家試験ですがその他にも評価の対象となる項目がいくつもあります。そういうものを表に見せられるだけの質を確実に積み上げていくやり方をしていこうということになっています。同時に歯学部学生の教育の周辺は、臨床があり、研究がありますから、この三者が一体となって向上していかないと、教育の効果は上がらないと私は考えます。したがってこの面でも、本日ここにおいでの方の皆さんの絶大なご尽力が必要となりますので、是非宜しくお願ひしたいと思っています。

学生がいなければ大学ではありません。大学がユニバーサル化という誰でも入ってくるような時代になると、教育を充実させないと学生は来ない事になります。また、大学のメインの顧客は学生です。今後は皆さんそれぞれがそのような意識で、東京歯科大学に入ってきた学生をどのような学生に育てたいのかをよく考えて、教育に携わっていただければ必ずからその結果が出るだろうと思います。本学にはしっかりとしたカリキュラムがありますし、今では歯科医学教育開発センターで様々な教育の技法や成果、評価もきちんとされてきましたし、東京歯科大学の教育力は他大学に比べても恥じることは全くないので、これをより一層充実させていただきたいと思っています。また、こうした中身を社会に知らせることが大事だと思っています。それは広報活動です。同時に学内の皆さんも実は自分の職場以外はあまり知らないのが現状であると思います。大学広報を読んでいらっしゃる方も多いと思いますが、大学広報で東京歯科大学のトレンドが一番よくわかると思います。私も広報にものを書く時はかなりそれを意識して、皆さんにどうしたら理解していただけるかを考えて書いております。可及的に休憩時にでも大学広報を見るようにしていただきたいと思っています。広報活動は、大学によってはセクションを独自で作っているところも最近では多くなっている位、重要性があります。

1月2日でしたかインターネットで、日本歯科大学が「歯及びその支持組織の体外での再生に成功した」というニュースが出たとの事を聞きました。歯科大学がそうした素晴らしい研究成果を上げているのは、歯科界の為にもよいですし、我々の競争意識を非常に刺激いたします。少なくとも私は多少興奮いたしました。

【櫻を繋ぐ】

今後の歯科医療の進展は、研究によるところ大ですが、教育・臨床・研究の三つの役割はそれぞれ過不足無く皆さんにお願ひしたいと思っています。各講座の主任はやるべき仕事の成果の中で、どういう人的配置をするか良くお考えいただきたいと思っています。何れにせよ大学改革は先陣でスタートを切って、良い立場にしようと思うのです。この積み重ねが120年という歴史であります。私は3日に日比谷公園の前で、箱根駅伝の最終区、あと3キロ位の所でランナー達を見ていましたが、あの「櫻」を繋げる心地よさや責任感があれだけの力を出させるのだと思います。最近のアスリートは試合に臨むにあたって楽しむと言う話をいたしますが、これは自分の緊張をリラックスさせる為に楽しんでいこうと思うことで、実は非常に緊張の極にあります。一種の自己暗示で、勝負をどちらでも良いと思っているわけではありません。皆さんも仕事のやり方ではそれぞれ緩急をつける方策をお持ちのことと思います。東京歯科大学も「継承と発展」というキャッチフレーズを作り、この「継承」という意味で、我々が新しい幕開けをし、次の150周年を迎えるこの中のたくさんの方々に、リレーの選手として繋げる役割をしっかりと果たしたいという気持ちで今年も過ごしたいと思っています。

【組織のあり方】

ものを変えるには活力・エネルギーがないとできません。人に言われて動くのでは力は発揮できません。組織単位での基本的なあり方を次のように考えます。一つは、コミュニケーションだと思っています。

互いのコミュニケーションを取る最も基本的な事は挨拶だと思います。挨拶をきちんとするところからすべて始まると思います。もう一つは「ほう・れん・そう」です。それぞれの立場での、報告、連絡、相談があるので、特にフレッシュマンの方々はこれを意識しておく必要があります。あと一つは目標に向かうための意識統一です。理解することが必須となり、そのためには討議が必要です。会議のやり方を勉強して必ず結論を出す事です。皆が集まった時、課題を解決してそれを実行するには、進行法がありますので、運営していく方々はその方策を考えた上で、無駄な会議にならないよう心がける必要があります。そして決まったら実行し、さらに後で評価をするということを実行する原則として、約1,300名の教職員皆さんがそれぞれの職場で実行していただきたいと思います。

〔新しい時代の第一歩〕

今年新しい時代の第一歩と認識しております。そこにあるいくつかの高いハードルを乗り越えて、4.5年後には安定期に移行させたいと思います。これには皆さんが心を一つにいただかないと上手くいきません。東京歯科大学は総合大学と違ってこぢんまりとした小さな大学です。小さい割には補助金をたくさんいただいています。そのことは大学の役割として多くの機能を持っていることを示しています。そして社会からその成果が上がることを期待されています。今年は大還暦後の新しい年ですので、改めて東歯大の誇りを持って目標に向かって行きたいと思います。

皆様には本年もご尽力とご協力をお願いして、新年の挨拶を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。どうぞ宜しくお願いいたします。

■教授就任のご挨拶



市川総合病院
内科学講座

野川 茂

このたび、平成23年1月1日付けをもちまして、市川総合病院内科学講座教授を拝命いたしました。専門は神経内科、特に脳卒中とパーキンソン病です。従来、神経内科は難解で治療法がない疾患が多かったのですが、近年のニューロサイエンスの進歩やMRIなどの画像検査の導入に伴い、今ではほとんどの神経疾患において何らかの治療法が見つかっています。神経内科学は、脳卒中などの内科・救急領域のみならず、歯科・口腔外科領域においても必須のものとなっています。しかし、教育の現場では、専門化や関連領域の著しい進歩により膨れあがった知識と技術をいかに学生や研修医に学ばせるのかが大きな問題となっています。私は単に知識や手技を伝授するだけでなく、自ら問題を発見・解決し、患者の立場を理解

できるような(歯科)医師の養成に努めてゆきたいと考えます。

臨床では、最近発症3時間以内の超急性期脳梗塞に対して血栓溶解治療が導入され、当院でも約40例に本治療が施行され良好な成績を収めています。本治療は、劇的に症状を改善できる反面、出血を惹起する可能性があり、施行には熟練を要します。そのため、日本脳卒中学会では適正使用講習会の受講者のみに実施を認めています。私は千葉県における講習会の講師として本治療の普及に努めております。ところで、亜急性期には如何に嚥下性肺炎などの合併症を予防するかが課題となっています。当院では、歯科・口腔外科の先生方の協力のもと、早期から口腔ケアや嚥下機能評価が実践されており、在院期間短縮に効果をあげています。また、千葉県脳卒中連携パスでは、全国に先駆けて歯科連携シートが取り入れられており、特に市川市では地域生活期においても開業歯科医との連携が進められています。

このように、当院では歯科・口腔外科の先生方と共に、先進的な脳卒中診療が展開されており、今後もこのような連携を推進させてゆきたいと考えております。どうかご協力をお願い申し上げます。

■准教授就任のご挨拶



歯科保存学講座

森 永 一 喜

この度、教授会のご推挙により、平成23年1月1日付けをもちまして歯科保存学講座准教授を拝命いたしました。身に余る光栄でありますとともに、重責に身の引き締る思いであります。私は、昭和56年に東京歯科大学を卒業後、昭和60年に同大学院を修了し、当時の歯科保存学第一講座に採用され、浅井康宏名誉教授、中川寛一教授のご指導のもとで診療、教育、研究に従事してまいりました。

歯科保存学講座は歯内療法学の教育を担当しております。従来より座学での知識と実習での

技能を統合し教育効果をいかに高めるかという観点で進めてまいりました。大学移転を控えたこの時期に、より効率的な教育体制の構築に向け注力していく所存であります。それに加え私は感染制御、医療安全、医療保険の分野で歯学部学生、臨床研修歯科医、歯科衛生士専門学校学生の教育にも携わっております。これらの分野の教育も今後より一層重要性を増すものと考えております。

臨床では歯内療法の領域でも従来保存不可能とされてきた症例が数々の新しい技術、処置法の開発により歯牙の保存が可能となって参りました。私もこれまでそれらの処置法を習得すべく実践して参りましたが、今後も研鑽を続けそれらを臨床の場で十分に活用していきたいと考えております。

最後に東京歯科大学の益々の発展のため、微力ながら少しでもお役に立てるよう努力していきたいと考えておりますので、今後ともより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



市川総合病院 内科学講座

岡 田 聡

この度、教授会のご推挙により、平成23年1月1日付けをもちまして、市川総合病院内科学講座准教授を拝命いたしました。光栄に存じますと共に今後も本学および市川総合病院の発展に微力ではございますが臨床、教育、基礎研究に尽力して参りたいと思います。

平成14年に計8年の米国での研究生生活の後に市川総合病院へ赴任いたしました。最初は戸惑いも多かったのですが内科部長である森下鉄夫教授、消化器内科部長である西田次郎教授からご指導をいただきながら、また仁科牧子先生、野川茂先生や他の諸先生方にご迷惑をおかけしながらも何とかやっけてまいりました。この場を借りて御礼申し上げます。

私は神経内科医で、学問的には多発性硬化症(MS)、筋無力症や筋炎などの免疫性神経疾患

に興味があります。近年の分子標的治療の進歩により多くの患者さんがその恩恵を受けています。神経の分野で例をあげるとMSには2004年にnatalizumabが欧米では使用されるようになりました。有効性は高いのですが投与数が増えるにつれて頻度は非常に低いながらも致死的な副作用が生じることがわかり、現在はガイドライン上は他の治療が有効でない場合に使用するよう勧められています。ごく最近、fingolimodが米国FDAの審査を通りました。MSでは今までにない経口薬であり、日本での導入も待たれるところです。今後は再生治療に多くの期待が寄せられています。これらの神経免疫疾患の患者さんに今以上に貢献できるよう努力していく所存です。

私の研究分野は腫瘍細胞障害性、抗菌作用や自己免疫疾患の進展にも重要な役割を持つ cytolytic molecule です。作用機序の完全な解明と DDS に応用できるよう、歩みは遅いながらも研究を進めています。

某IT企業のCEOの言葉である” stay hungry, stay foolish” の精神でまことに微力ではありますが医学の発展に少しでも貢献できれば幸いです。

学内ニュース

■患者サロンの開催

平成20年2月に「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けた市川総合病院では、昨年10月より「患者サロン」を開催している。このサロンは、市川総合病院で治療中のがん患者さんとそのご家族を対象に「集いの場」を提供するもので、偶数月の第3土曜日に午後2時から2時間程度、院内で開催している。プログラムは、毎回ゲストの先生に40分程度ミニレクチャーを行ってもらい、その後1時間程集まった方々で自由にお話している。

10月16日（土）の第1回目は、市川総合病院副病院長で消化器内科部長の西田次郎教授より「自分でできる健康チェック法」について、12月18日（土）の第2回目は、オーラルメディスン・口腔外科学講座の西久保周一助教より「がん治療中のお口のケア」についてのお話をいただいた。どちらの回も患者さんやご家族の10名程度の参加があり、千葉大学を拠点に活動している患者会「支えあう会α」の会員の方にもお手伝いしてもらっている。開催後のアンケートでは、「普段の生活に役立つことが聞けて、参加できてよかったです」「暖かい雰囲気が良かったです。また楽しみにしています。」などのお声をいただいた。今後は精神科医や薬剤師、ソーシャルワーカー等のミニレクチャーを予定しており、より充実した患者サロンを続けていきたいと考えている。

■第319回大学院セミナー開催

平成22年11月26日（金）午後6時より千葉校舎第1教室において、第319回大学院セミナーが開催された。今回はカナダ・モントリオール大学歯学部 of Antonio Nanci教授をお迎えして「The secretome of ameloblasts: from building enamel to maintaining periodontal integrity」と題した講演を伺った。Nanci教授はエナメル質形成の研究において優れた業績を有する研究者として、また、Ten Cate's Oral Histologyの編集者として知られている。

初めにエナメル芽細胞の構造と機能について、その概略を解りやすく解説して頂き、ついで先生の最新の研究データをご提示頂いた。新規タンパク質 Amelotin と Apin は、成熟期エナメル芽細胞

の基底膜様構造および歯肉接合上皮の内基板に局在し、これらがエナメル質と細胞の接着に深く関与していること、さらにノックアウトマウスによる解析から Apin が接合上皮の恒常性維持にも重要であることを示唆された(未公表データ)。大学院生のみならず、関連分野を研究している者にも大変に興味深い内容であり、また、参加者からの質問にも丁寧に答えて頂き、有意義なセミナーとなった。



講演されるNanci教授:平成22年11月26日（金）、千葉校舎第1教室

■市病フォーラム2010開催

平成22年11月27日（土）午後2時より、市川総合病院講堂に於いて、市病フォーラム2010が開催された。

今回は「病院機能評価更新受審に向けての取り組み～各部門の現状と対策～」と題して行われた。安藤暢敏市川総合病院長の挨拶にはじまり、実行委員長の森下鉄夫教授（病院機能統括部長・内科学講座）の司会進行のもと、病院機能評価更新受審の市川総合病院の取り組みについて、各職種から講演が行われた。

森下実行委員長による「基調講演」に始まり、診療部、看護部、医療安全管理室、感染予防対策室、薬局、リハビリテーション科、地域連携・医療福祉室、医療情報システム管理課、医事課等、様々な職種から、現状、今後の方向性や対応策についての講演が行われた。

100名を超える参加者からは、大いに関心が寄せられ、質疑応答も活発に行われ、大変有意義なものとなった。

最後に、松井淳一広報委員長(外科学講座教授)

から挨拶をいただいて、閉会となった。



基調講演をする森下実行委員長:平成22年11月27日(土)、市川総合病院講堂

■森岡俊行大学院生 第14回(社)日本顎顔面インプラント学会・学術大会で優秀発表理事長賞を受賞

平成22年12月4日(土)・5日(日)に行われた、第14回(社)日本顎顔面インプラント学会・学術大会(明海大学、千葉県)において、口腔インプラント学講座の森岡俊行大学院生が、優秀発表理事長賞を受賞した。

本賞は、研究内容や成果、またプレゼンテーションの内容について学術委員会による選考が行われ、特に優秀な2名に贈られる賞である。

演題名は“ヒト下顎皮質骨における生体アパタイト結晶の配向性”である。本研究は、骨質の指標である生体アパタイトの結晶配向性に着目し、ヒト下顎骨における第一大臼歯部皮質骨の生体アパタイトの結晶配向性を初めて明らかとした。また、同部位にて、骨密度の測定を行い、両者の比較により、ヒト顎骨において生体アパタイトと骨密度が、それぞれ独立したファクターであることを明らかとした。今後の研究の発展が期待される。



(社)日本顎顔面インプラント学会の瀬戸院一理事長より、表彰される森岡大学院生:平成22年12月5日(日)、明海大学浦安キャンパス

■平成22年度(第41回)千葉県私学教育功労者表彰を受ける

大学事務局 施設課 営繕係長・電気技師長
佐々木 松 悦 氏
市川総合病院 施設課 電気技師
鈴木 保 之 氏
市川総合病院 調理師
鈴木 光 良 氏

この表彰は、千葉県内の私立学校の教職員として長期間従事し、特に功労があった者として各学校から推薦された候補者の中から選ばれるものであり、今回、本学からは当該者3名を推薦した結果、表彰されることとなった。

佐々木松悦氏は、電気技師として昭和50年に就職して以来35年間、大学の施設・設備の修繕等維持管理、緑地管理等生活環境の整備に配慮し、学生が安全で快適に過ごせるよう務めてきた。現在も施設課営繕係長・電気技師長という職務を誠実に果たし、維持・管理計画資料の提供や施設・設備の定期点検を通じて、大学の施設・設備管理・運営に大きく貢献している。

鈴木保之氏は、平成2年3月にボイラー技士として就職し、平成9年4月に電気技師へ職種変更、20年にわたり市川総合病院の施設・設備面を支えてきた。委託業者への確かな指示・指導を行い、円滑に効率よく業務を遂行している。その仕事ぶりは謹厳実直であり、他の職員の範たる存在である。

また、鈴木光良氏は、昭和47年に炊事員として就職し、昭和49年に一度退職後、昭和61年に調理師として再就職した。その後長きに亘り、優秀なる技術を持つ調理師として市川総合病院の患者給食業務に携わってきた。平成8年には副調理師長となり、後輩スタッフの指導にも熱心に取り組み、他の職員からも大変厚い信頼がよせられて



表彰を受けた佐々木氏:平成22年12月4日(土)

いる。

以上のように、本学から推薦した3名の貢献してきた功績が高く評価され、今回の表彰となったものである。



表彰を受けた鈴木保之氏:平成22年12月4日(土)



表彰を受けた鈴木光良氏:平成22年12月4日(土)

■市川総合病院 市川市との合同医療救護活動訓練報告

平成22年12月4日(土)午後2時より市川総合病院において、地震などの大規模災害に備え、市川市との合同医療救護活動訓練が行われた。

市川総合病院は災害拠点病院に指定されており、災害時には多数の負傷者が押し寄せることが予測される。市川市は当院敷地内に医療救護所を設営する予定で、医師会から派遣された医師が負傷者の応急手当てと病院内への搬送の要否判断などを実施することになっている。

訓練は江戸川河口付近を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生、市内は震度6強の揺れに襲われて建物の倒壊などで多くの負傷者が出たとの想定で始まった。

市川総合病院の役割は、市川市及び市川市医師会と相互に連携を図り、速やかに医療救護活動を実施し、後方病院の機能を果たすというものである。市川総合病院が患者で溢れ、重傷者への対応

など本来の役割が損なわれてしまう可能性があるため、市川市により当院正面に仮設救護所が設営され、市川市医師会の医師によるトリアージが実施されることとなっている。軽微な負傷患者は仮設救護所で治療して帰宅させ、院内での治療が必要となる重症患者を判別して後方病院である市川総合病院へ搬送する。一方、市川総合病院側では仮設救護所から搬送されてくる重症患者を受け入れ、院内で二次トリアージを実施して重症患者の処置を行うという、それぞれの役割があらかじめ決められている。訓練は、そうした役割分担を想定し行われた。

当日は晴天に恵まれ、市職員や医師・歯科医師、看護師、当院教職員ら約120名が参加した。昨年に引き続き、2回目の合同訓練としては滞りなく進行し、人の動きや各種オーダーなどの流れを確認することができた。また、今後の課題となる問題点も数多く発見することができた。そして、実際に災害が発生した際に、受け入れ能力を超えた多数の被災者が来院した場合には、対応が不可能になるという現実も想像されることから、普段から地域住民に対する啓蒙活動も重要であること



院内における傷病者処置行為:平成22年12月4日(土)、市川総合病院1階待合ロビー



トリアージをする市川市医師会医師:平成22年12月4日(土)、市川総合病院前

が再認識された。災害時の基本的な考え方や、流れを理解する上でも非常に有意義だったと言える。訓練の終わりには、栄養管理室により非常食の試食も行われ、参加者の災害に対する意識がより高まった訓練となった。

■大学院入学試験（I期）実施

平成22年12月4日（土）午前9時30分より千葉校舎において、平成23年度大学院入学試験（I期）が実施され、外国語（英語）試験および志望講座における主科目試験・面接が行われた。また同日、社会人特別選抜及び口腔がん専門医養成コースの試験も実施され、外国語（英語）試験および口頭試問（面接）、志望講座における主科目試験・面接が行われた。本年度は志願者26名（一般24名、口腔がん専門医養成コース1名、社会人1名含む）が受験し、12月10日（金）正午に合格者の発表が行われた。なお、II期は平成23年2月19日（土）に実施される予定である。

■第320回大学院セミナー開催

平成22年12月8日（水）午後6時より千葉校舎第1教室において、第320回大学院セミナーが開催された。今回は独立行政法人物質・材料研究機構生体材料センター金属生体材料グループ・グループリーダーである山本玲子先生を講師にお迎えして、「材料—細胞間剪断接着力測定による材料の細胞親和性評価」と題した講演を伺った。

独自に開発された単一細胞を剥離することで接着エネルギーと接着力を定量する細胞接着測定装置を映像で分かりやすく紹介いただき、細胞種の違いや材料表面の種類による細胞接着力の違いを解説された。また、干渉反射顕微鏡観察と細胞剥



講演される山本先生:平成22年12月8日（水）、千葉校舎第1教室

離後の破断面の免疫染色像により、細胞接着分子が材料表面に残存する形で細胞が破断するという興味深い細胞破断メカニズムをご提示いただいた。最後に、生体材料領域でのマグネシウム応用の可能性を、現在開発を進めているマグネシウム合金の紹介とともにお話下さった。研究を進めていく上で生じる問題発見能力、それを支える深い科学的洞察、問題解決するための論理的思考、実践力は大学院生にとって模範となるものであった。内容の濃い、教育的示唆に富んだご講演であった。

■第321回大学院セミナー開催

平成22年12月10日（金）午後6時より千葉校舎第2教室において、第321回大学院セミナーが開催された。今回は鶴見大学歯学部歯科理工学講座の早川 徹教授を講師にお迎えして「アパタイトコーティングと細胞接着タンパク質固定化」と題した講演を伺った。

「アパタイト薄膜コーティング法として分子ブレイカーサー法を応用したところ、チタン基板に塗布し、600℃で2時間加熱処理を行うのみの簡便な行程で、密着性に優れた1μm以下の炭酸含有アパタイト薄膜が形成でき、動物埋入実験で良好な骨適合性が確認された。」また、「チタン表面に細胞接着タンパク質を固定化するためにトレシル化チタン法を考案し、フィブロネクチンを固定化した。固定化されたフィブロネクチンによって、チタンへの細胞付着数が増加し、骨形成に関与する遺伝子の発現が上昇した。」などチタンインプラントの表面改質法についての研究成果をお話し頂いた。本学との共同研究による成果や本学の優れた研究設備についても話され、研究手法を学ぶ上でも大変有意義なセミナーであった。



講演される早川教授:平成22年12月10日（金）、千葉校舎第2教室

■第322回大学院セミナー開催

平成22年12月14日(火)午後6時30分より千葉校舎第1教室において、第322回大学院セミナーが開催された。今回は東海大学医学部付属八王子病院口腔外科の坂本春生教授を講師にお迎えして、「外科感染症学から考えるインプラント治療」と題した講演を伺った。

細菌が体内を移動するというバクテロイデストランスロケーションによって、頸部郭清を行ったリンパ節内でも腸内細菌が検出されることがあるという興味深いお話をはじめ、抗菌薬に関する基礎的事項を解説して頂いた。特に手術創感染(Surgical site infection: SSI)防止のための抗菌薬使用では、抗菌薬使用による細菌叢に変化によって制御の難しいMRSAや多剤耐性菌の発現をみることもあり、投与量、使用法、期間などに配慮が必要であることをお話頂いた。インプラント埋入手術を含めた口腔外科領域での周術期の感染予防に関して、大変参考になる有意義なセミナーであった。



講演される坂本教授:平成22年12月14日(火)、千葉校舎第1教室

■入試ガイダンス開催

東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象として、平成23年度入試ガイダンスが平成22年12月18日(土)に午後2時より水道橋校舎13階で開催された。

井出吉信副学長の挨拶の後、口腔健康臨床科学講座の齋藤 淳講師による「わかりやすい歯周病の話」と題した模擬授業を行い、実際に臨床で体験した話を交えながら、大学で学ぶ歯科医学専門科目に関する内容の一端を紹介した。続いて、入試概要、入試科目のポイントを説明した後、入試ガイダンスの総括として河田英司教務部長より、歯

科医学教育の現状について説明があった。その後、大学案内、学生生活の説明を行い、最後に希望者を対象に教務部・学生部の教職員との個別面談を実施した。

今回は57名もの参加者が集まり、新たに設置した学費相談コーナーも含め行列ができるなど本学の情報を得ようという熱気に溢れ大盛況なガイダンスとなった。



齋藤講師の模擬授業を熱心に聞き入る受験生:平成22年12月18日(土)、水道橋校舎13階ルームA

■平成22年度第7回水道橋病院教職員研修会開催

平成22年12月20日(月)午後5時30分より、水道橋病院総合歯科外来において、平成22年度第7回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、水道橋病院感染予防指導チーム委員会の主催により、院内感染予防対策として手洗いの実習を行った。

実習に先立ち、同委員会委員長の関根秀志准教授(口腔インプラント科)より挨拶ならびに実習の趣旨説明があり、続いて同委員会委員の高久勇一朗助教(口腔外科)より、院内感染予防の重要性とスタンダード・プリコーションによる感染予防として手洗いの必要性を解説し、正しい手洗いの方法



手洗い実習風景:平成22年12月20日(月)、水道橋病院総合歯科外来

を説明した。続いて、手洗いを各自で実際に行ってもらい、日頃の手洗いが正しい方法で十分に出来ているかを確認した。通常の手洗いでは洗い残しが多いため、特殊蛍光ローションを塗った上で手洗いを行い、蛍光ライトで洗い残しの部位を確認し記録した。

院内感染が原因による医原性感染症や多剤耐性菌の出現など、院内感染予防の重要性があらためて指摘されている。とりわけ、院内感染予防は病院内の医療従事者が全員でスタンダード・プリコーションを実行できるかが重要なポイントとなるため、大変有意義な研修となった。

■第99回歯科医学教育セミナー開催

平成22年12月20日(月)午後6時より千葉校舎第2教室において、第99回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「臨床実習プログレス期間について」と題し、臨床教育委員長の矢島安朝教授、「プログレス期間」作業部会リーダーの平田創一郎准教授、「臨床と基礎の結びつき」作業部会リーダーの村松敬講師より説明があった。

まず始めに、矢島教授より平成19年度、20年度の教育ワークショップ「臨床実習中の新たな教育フレーム」において検討した結果、第114期生(平成20年度第6学年)より実施された「成績上位者へのアドバンスコース」、「学習成果不振者へのベーシックコース」、第115期生(平成20年度第5学年)より、臨床実習期間を短縮し実施された、「臨床実習の学年制への移行」について説明があった。そして、千葉病院総合診療科との協力で実施された「一口腔単位の教育」、「研修医とのケースカンファレンス」、最後に、それらを統合して実施された第116期生(平成22年度第6学年)のプログレス期間の実施について等、これまでの経緯について報告があった。

次に、平田准教授より第117期生(平成23年度第6学年)に実施される、プログレス期間について、「到達目標」、「各科への配当学生数」「具体的な評価方法」について説明し、学生はチームの一員として診療に参加しつつ、関連基礎講座や他診療科との共同コースにより、臨床実習終了後に迎える国家試験、研修期間、また、その後の臨床現場に活かされるカリキュラムが組まれている旨説明があった。

そして、村松講師より、ベーシックコースについて、これまでの経緯と昨年度実施後の学生アンケート結果をふまえ、今年度の内容について説明があった。今年度は教育用WEBを活用し、対象者のみではなく、希望する学生は全員が受講することができ、登院実習についても障がないプログラムを作成した旨説明があった。

最後に、矢島教授より、千葉校舎の9診療科、12講座・科目、水道橋病院、市川総合病院についても病院全体でのカリキュラムが組まれている、全学的な取り組みになる旨説明があり、参加者に対し協力の依頼があった。

当日は100名を超える参加者が集まり、今年度の実施についての質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



説明する矢島教授:平成22年12月20日(月)、千葉校舎第2教室

■【テーマA】360度評価研修ワークショップ開催

平成22年12月23日(木)午前9時40分より千葉校舎第1教室および第1,3,4セミナー室において、第2回360度評価研修ワークショップが開催された。本ワークショップは、文部科学省の平成21年度大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラムで選定された本学の取組「個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成～高い倫理観とコミュニケーション能力に基づく総合診療計画立案能力の向上～」における評価体制の軸となる研修であるとともに、本学のFD活動の一環として実施するものである。本取組は、「コミュニケーション教育」と「医療倫理教育」をさらに発展させ、「総合診療計画立案能力養成プログラム委員会」の発足と「ペイシェント・コミュニティー(P-Com)」の設立を軸としており、これら

により、国民が求める高い人間力と行動特性を持った医療人を養成しようとするものである。

まずはじめに、360度評価についての講演を行い、次にロールプレイによる評価および小グループでのフィードバック技法等についての実践的な演習を行った。これらを通じ、平成22年度から導入・実施の360度評価による態度・技能評価方法の習得を目指し、教員個々の態度・技能評価能力の向上を図った。

今回の参加メンバーは8月、9月に実施された第1回の勉強会を受講したタスクフォースを含め、本取組の中心的なメンバーとなることが期待されており、学習評価のより一層の充実を目指し、講演・演習終了後の全体討議において大幅に時間が超過する程、熱心な意見交換が行われた。



全体討論風景:平成22年12月23日(木)、千葉校舎第1教室

■「平成22年仕事納めの会」実施

千葉校舎「平成22年仕事納めの会」は、平成22年12月28日(火)午後1時より厚生棟1階食堂において開催された。会場には教職員、大学院生、臨床研修歯科医等が多数集まり、菅沼弘春大学庶務課長の司会のもと、金子 譲学長より一年を締め括る挨拶が述べられた。引き続いて、柳澤孝彰副学長のご発声により一同乾杯、今年一年の労を互いにねぎらい、会は賑やかに進行した。

懇談の中、吉峯規雄大学事務部長の中締めにより会は和やかな雰囲気のまま閉会となった。

市川総合病院では、午後4時30分より講堂において開催された。金子 譲学長、安藤暢敏市川総合病院長より、市川総合病院教職員に対して挨拶が行われた。続いて、安藤市川総合病院長より医学教育等関係業務功労者表彰、千葉県私学教育功労者表彰、千葉県看護功労者表彰が披露され、ポ

ランティア団体に感謝状の贈呈が行われた。

水道橋校舎では、午後6時より水道橋校舎9階にて、熱田俊之助理事長、歴代の水道橋病院長の先生方、金子 譲学長、井出吉信副学長、薬師寺 仁名誉教授をお迎えし、水道橋病院・法人事務局・同窓会事務局の教職員が一堂に会して開催された。会の冒頭で熱田理事長、金子学長よりご挨拶をいただき、続いて一戸達也水道橋病院長・法人主事のご挨拶および発声により乾杯した。参加した教職員は終始和やかな雰囲気ですべてを深め合い、高野正行水道橋病院副病院長の中締めにより



挨拶する金子学長:平成22年12月28日(火)、千葉校舎厚生棟



金子学長挨拶に聴き入る教職員:平成22年12月28日(火)、千葉校舎厚生棟



挨拶する安藤市川総合病院長:平成22年12月28日(火)、市川総合病院講堂

お開きとなった。



挨拶する一戸水道橋病院長・法人主事:平成22年12月28日(火)、水道橋校舎9階

■平成22年度「NHK歳末たすけあい募金」実施

年末恒例の「歳末たすけあい募金」は、平成22年度も千葉校舎、水道橋校舎において、12月初旬から年末までの日程で実施された。

なお、集められた募金は2施設合計44,099円で、すべて「NHK歳末たすけあい義援金」として寄付された。募金は共同募金会を通じて、民間福祉施設に車椅子や介護用品を贈るなど、施設や在宅の障害者(児)・高齢者・児童等支援を必要としている方々のために利用される。

■「平成23年仕事始めの会」実施

千葉校舎「平成23年仕事始めの会」は、平成23年1月5日(水)午前9時より講堂において教職員、大学院生並びに臨床研修歯科医等が出席し、菅沼弘春大学庶務課長の司会のもと、金子 譲学長による年頭の挨拶が行われた。

金子学長からは、これまで先達が繋げてきた120年という歴史を継承し、教育・研究・診療の充実をはかり大学の価値をより一層高め、競争が激化する歯科界を勝ち抜いていくために、教職員が一致団結して取り組んでいこうとのお話があった。

市川総合病院では、午後4時30分より講堂において開催された。金子 譲学長、井出吉信副学長、安藤暢敏市川総合病院長より、市川総合病院教職員に対して年頭の挨拶が行われ、市川総合病院の一年の幕開けになった。

水道橋校舎では、午後6時より水道橋校舎13階A教室にて、水道橋病院・法人事務局の教職員の出席のもと、熱田俊之助理事長、金子 譲学長、

一戸達也水道橋病院長・法人主事より年頭のご挨拶をいただいた。

■市川総合病院循環器内科/救急部長 大木貴博講師が市川市長表彰を受賞

平成14年全国において救急救命士の業務高度化推進を目的とするメディカルコントロール協議会が設置され、救急隊は重症傷病者へ接触した際に医師の包括的指示の下に電氣的除細動、気管挿管、静脈路確保、および薬剤投与が行えるようになった。これにより重篤な心肺停止症例に対する救命活動は非常に充実したものとなり、各地で心肺停止からの蘇生率、並びに社会復帰率は年々上昇傾向を見せるようになってきている。メディカルコントロール(MC)には救命士と直接電話で指示を与えるオンラインMCと、救命士の活動が適正であったかを事後に検証するオフラインMCが含まれる他、救急蘇生プロトコル作成、救命士に対する医療教育、それに地域一般住民による救命行為の把握・推進にも大きな役割を果たしている。市川市は船橋市、習志野市、浦安市、鎌ヶ谷市、および八千代市と共に東葛南部地域MC協議会に参加しており、年に4回ほど行われる会議と年に4回開催される症例検討会には医師として市川市医師会副会長と私が毎回出席している。私はMC協議会本会の分科会であるAED委員会にも参加し、時代と共に変更となる救急蘇生法の普及業務にも携わっている。

こうした活動を10年近く継続し市川市の救急業務の高度化に貢献してきたことが評価され、この度本年1月8日(土)の市川市消防出初め式において私は市川市長表彰された。江戸川河畔稲荷木消防訓練所において森田健作千葉県知事、選挙区衆議院議員、参議院議員、多くの市川市議会議員らも同席している中、私は当日表彰受賞の代表を務めさせて頂き、大久保 博市川市長から直接表彰状を授与された。

東葛南部地域各市はそれぞれ救急拠点となる代表的病院を一つずつ有しており、船橋市の市立医療センター、習志野市の済生会習志野病院、浦安市の順天堂浦安病院、鎌ヶ谷市の鎌ヶ谷総合病院、および八千代市の東京女子医大医療センターとならび市川総合病院は市川市の救急最高医療機関である。このことを重く受け止め各診療科の先

生方と協力してこれからも市川市の救急医療に貢献していきたいと思っている。

(市川総合病院循環器内科/救急部長 講師
大木貴博)



大久保市川市長より表彰される大木救急部長:平成23年1月8日(土)、江戸川河畔稲荷木消防訓練所

■第100回歯科医学教育セミナー開催

平成23年1月17日(月)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第100回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「水道橋病院の臨床実習について」と題し、水道橋病院副院長の古澤成博准教授と教育主任の片倉 朗准教授により、説明が行われた。

はじめに、古澤准教授より、今日までの水道橋病院における臨床実習の取り組みについて説明がなされた。従来の水道橋病院における臨床実習は、形骸化された実習となっており、学生のモチベーションが低く、また教員・医局員も教育意識が希薄な側面があった。そこで、患者が多く、症例が豊富で各科の連携が容易である水道橋病院の特徴を学生教育に反映させる試みが始まった。従来の実習内容は、チェアサイドでの介助や見学症例の記載と観察記録が主体であったが、「診断」と「治療計画の立案」をメインテーマとし、治療計画の立案・ディスカッション、模型を利用した治療計画立案実習、実際の患者に対する医療面接の実施など充実した内容へと変更した。さらに、知識面でも診療終了後の講義や客観試験、口頭試問を導入した。一方で、臨床実習に携わる教員・医局員に対しては、教育ワークショップへの参加や独自の試験問題ワークショップの実施、千葉校舎における教育内容の周知など、教育に対する意識を変える努力がなされているとのことであった。

次に、片倉准教授より、水道橋病院の現状につ

いて説明がなされた。はじめに、教育担当者や教育現場の簡単な説明があり、引き続き、水道橋病院で行なわれている臨床実習教育について、問題点等を織り交ぜながら、一日の流れに沿って写真を提示しながら紹介された。課題は多々あるものの、教員だけでなく職員を含め、水道橋病院一体となって問題に取り組む体制をとっているとのことであった。

今回のセミナーは、水道橋病院の教育現状を共有する良い機会となり、当日はテレビ会議システムを利用し、169名(千葉127名、市川14名、水道橋28名)もの教職員が参加し、有意義なセミナーとなった。



説明する片倉准教授:平成23年1月17日(月)、千葉校舎第2教室

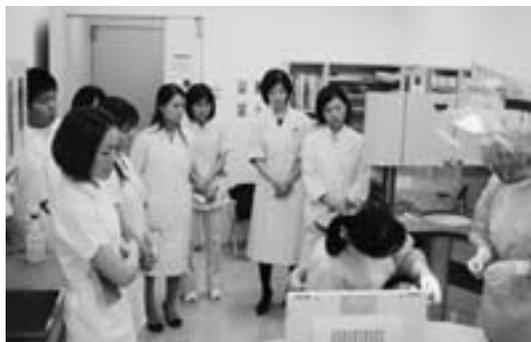
■平成22年度東京都エイズ診療従事者臨床研修開催

平成22年11月8日(月)、9日(火)および平成23年1月17日(月)、18日(火)の2回にわたり、水道橋病院において「平成22年度東京都エイズ診療従事者臨床研修」が開催された。この研修は、水道橋病院が東京都福祉保健局からの委託を受け、都内の医療機関に勤務している歯科医師・歯科衛生士・看護師を対象に、エイズを含めた感染症の標準予防策、診療の実際についての基本的な知識・技術の習得を目的に講義・実習を行っているものである。12回目にあたる今年度は、11月が8名、1月が7名の合計15名が受講した。また、本院の臨床研修歯科医も講義を受講した。

講義は、池田正一臨床教授による「HIV感染症の現状および口腔所見と歯科医療」、11月は根岸昌功先生(ねぎし内科診療所院長)、1月は今村顕史先生(都立駒込病院感染症科医長)による「エイズ診療の基礎知識」、水道橋病院のスタッフによるス

スタンダード・プリコーションの理念および具体的な取り組み、感染症患者に対する歯科治療における注意点、HIV/AIDSの口腔症状、HIV症例の呈示等の内容で行われた。また、実習は手洗いおよび含漱の評価、CCR（クリーンケアルーム）において感染予防対策の実習およびHIV感染者の治療見学を行った。

受講後のアンケートでは、「スタンダード・プリコーションの重要性を再認識した」「非常に良かったので、もっと多くの人に聞いて欲しい」と好評な意見をいただいた。



CCRでの診療見学: 平成22年11月8日(月)、水道橋病院CCR



講演される池田臨床教授:平成23年1月17日(月)、水道橋病院研修室

■平成22年度第8回水道橋病院教職員研修会開催

平成23年1月24日(月)午後5時30分より、水道橋校舎13階B教室において、平成22年度第7回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は医療安全並びに医療機器の安全管理に関する研修として、一戸達也水道橋病院長から「患者急変時の対応について」と題した講演と、水道橋病院医療機器安全管理委員長である片田英憲講師から「患者急変時に使用する機器の取扱いについて」と題して、緊急時に使用する機器についての説明があっ

た。更に、水道橋病院歯科麻酔科医局員の指導により、緊急時に使用する機器の使用方法について、実際に機器を使用した解説と実習を行った。

一戸水道橋病院長の講演では、歯科診療中などに患者が意識低下を来した場合はバイタルサインの確認方法と意識レベルの評価方法並びに意識低下を来した原因別の対応方法について、スライド、ビデオおよび簡単な実習も織り交ぜながら詳細な講演が行われた。更に、歯冠修復物や診療用器材の誤飲・誤嚥発生時の患者の状態と発生時の対応について、実際の症例写真を用いて説明された。患者の意識障害は、歯科診療中はもちろんのこと、歯科診療前後にも発生する可能性がある。意識障害を来した原因が異なればその対応方法も異なり、原因の診断を誤れば間違った対応方法を取り、時には症状を悪化させることもある。今回の講演内容は、歯科医師はもとより、看護師、歯科衛生士など水道橋病院に勤務する全ての教職員が知っておかなければならない極めて重要なことである。

引き続き、片田講師からは、緊急時に使用するAED、生体情報モニタおよび酸素吸入器の設



講演する一戸水道橋病院長:平成23年1月24日(月)、水道橋校舎13階B教室



生体情報モニタの実習風景:平成23年1月24日(月)、水道橋校舎13階B教室

置場所についてスライドを用いて分かりやすく説明があった。その後、参加者は3グループに分かれ、生体情報モニタおよび酸素吸入器の使用方法について歯科麻酔科医局員から説明と実習が行われた。

緊急時には慌てることなく、まず周囲にいる教職員に応援を依頼することが重要であり、更に緊急時に使用する機器の使用方法は全ての医療系職員が熟知している必要があることから、参加者は終始熱心に聴講し、大変有意義な研修会であった。

■「全球華人 口腔医学大会への参加と中国歯科界の現状」報告

中国の厦門(アモイ、Xiamen)において「全球華人 口腔医学大会」が平成22年12月1日(水)から4日(土)の日程で、1万人以上の参加者のもと盛大に開催された。この「全球華人 口腔医学大会」とは、中国出身で欧米など海外の大学歯学部で主に教授職を担い活躍する“華人”を講演の演者として招待することを主な目的とした中国においてこれまでにない大きな国際歯科学会との事であった。また、様々な中国の歯科関連学会も共催し、例えば歯周病に関するセッションでは「歯周病分会场」とした大きな会場で数日特別講演が組まれていた。また本学小児歯科学講座の石 四箴客員教授(同済大学教授)もひとつのセッションの座長を

されていた。このように各会場で様々な分野の講演と熱い議論が行われていた。中国では経済発展に合わせたかのように、歯科界においても最新の歯科臨床を盛んに取り入れ、また最先端を目指した研究に対する取り組みにも目を見張るものがある。今回も各会場において海外から新しい何かを自分達の臨床、研究に取り入れようという意欲を感じた。特に欧米への留学を経験した若手研究者が続々と大学に戻ってきており、中、長期的には臨床、研究において大きな発展の可能性を秘めている事は間違いがない。初日のセレモニー会場では、東京歯科大学に在籍したことのある数人の先生方(現在は大学に在籍、開業など)に声をかけられ、色々な話を聞くことができ、中国歯科界に関する多くの生情報を知ることが出来た。



全球華人 口腔医学大会 総合受付前のパネル:会場入口に今回の学会で招待講演を行うすべての演者の顔写真が掲載され、初日のセレモニー前に関係のスピーカーの写真を探そうとパネル前が盛り上がっていた。

筆者はこの共催学会のひとつであるICOI（国際インプラント学会）から海外のスピーカーの1人として招待を受けた。このインプラントに関する分会場においては、New York UniversityのDr.Ady Palti他4名が演者となり、インプラント臨床における最新のトピックスで1日のプログラムが構成されていた。中国においても歯科インプラント臨床に関する関心は高まっており、参加者は他の会場に比べても多く質疑も活発であった。筆者は我々の最新の研究データ（インプラント治療のリスク回避のための肉眼解剖、治療後の筋活性・抗加齢現象に関する細胞生物学的研究結果のトピックス）についての発表を中心に行った。2日目の夜に学会の懇親会であるGARA NIGHT（ICOIが中心の懇親会）が開催された。日本を代表してということでオープニングスピーチを依頼されるなど、とても貴重な経験だったと感じている。

また、この大会には台湾から多くの歯科医師が参加していた。セレモニー会場、学会会場、懇親会会場では台湾で知り合った先生方と再会するこ

とが出来た。本学会で筆者は、ICOIの推薦を受け全球華人 口腔医学大会からの指名ではあったが、裏では本大会に関係する台北医科大学の先生方、ICOIの役員をされている台北医科大学OBの先生方からの推薦もあったと聞いている。すなわち今回の出張は、東京歯科大学が台北医科大学と姉妹校となり、金子 譲学長、一戸達也教授を中心とした歯科麻酔学講座による台北医科大学の障害者歯科外来の発足に関する国際協力、筆者が5年生に対し「インプラント解剖学」の講義を正規のカリキュラム内で4年前より毎年継続して行わせていただいていること、など様々なこれまでの両校のつながりの賜物であると感じた。

今後も機会があれば国外において、基礎的な立場から臨床の場へ様々な研究成果の情報提供を心がけ、東京歯科大学における国際交流の一端を微力ながら担っていきたいと感じた出張であった。

（解剖学講座 教授 阿部伸一）



台北医科大学歯学部5年生の授業中：平成22年10月4日（月）、前口腔医学院院長 林 哲堂教授（インプラント学の責任者）と筆者（右）

訃報

オーラルメディスン・口腔外科学講座 森本光明講師ご逝去



森本光明先生は病氣療養のため市川総合病院に入院中でしたが、平成22年12月2日逝去されました。享年54歳の若さで、講師として円熟期を迎えられ、前途ある人材を失った私達は呆然といたしました。それよりも森本光明先生ご自身の無念はいかばかりかと思えます。

先生は昭和57年3月に東京歯科大学をご卒業になり、同年4月からは東京歯科大学オーラルメディスン講座に入られました。歯科医師として臨床に、また大学人として研究と教育に当たられました。平成9年には「糖尿病患者口腔粘膜における微小循環異常に関する研究」にて歯学博士の学位を授与されました。

講座が担当する東京歯科大学市川総合病院では歯科および口腔外科の指導的役割を務め、医局長としても活躍されました。平成10年、講

師に昇任され、専門とする口腔粘膜疾患分野では日本口腔診断学会評議員、日本口腔粘膜学会や日本口腔外科学会では重要な委員会メンバーとして活躍されていました。後進の研究および臨床の指導にも熱心にあたられました。

先生はいつもにこやかに患者に接し、患者が納得するまで丁寧に説明されるため、多くの患者が信頼を寄せていました。

ある日、胃がんであること、市川総合病院で手術を受けることを直接伺いましたが、その時に患者の立場はつらいですねとの本音を漏らされました。幸い手術後の経過も良く、まもなく職場復帰され、私たちも安心しておりました。しかし、手術から二年後、再度病魔に襲われ、入院を繰り返され治療を受けられましたが残念なことになりました。心からこれまでの先生のご苦勞に対し感謝を申し上げます。

森本先生、安らかにお眠り下さい。

(山根 源之)

市川総合病院 岡田あずさ看護師ご逝去



東京歯科大学市川総合病院看護師 岡田あずささんは、在職中の平成23年1月9日に急逝されました。享年37歳。

岡田さんは看護師を志し、平成14年3月看護短期大学を卒業された後、心臓病センター・大動脈センターを併設する総合病院に就職されました。そこでは、希望であった手術室に配置となり、周手術期看護を5年3か月学んでおら

れますが、その後、更なる成長をみざして平成19年7月、当院に就職。当院では集中治療室に配置となり、前職での経験を活かしながらクリティカルケアを必要とする重症患者さんの看護を一生懸命学び、実践されていました。岡田さんの穏やかで優しい人柄は、職場の同僚、先輩、医師など多くの人に愛される存在でした。若くしてご逝去されたことに対するご本人の無念さにご両親の心痛をお察し致します。岡田あずささんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(西村 宣子)

移転関係報告

教職員への移転関係報告 (7)

平成23年1月11日

教職員 各位

理事長 熱田 俊之助
学長 金子 讓

移転計画の進捗状況（経過報告）について

新年明けましておめでとうございます。

大学の移転計画は、本年いよいよ新校舎の建設に着手することとなります。

年頭にあたり、これまで移転計画を進めて参りました経緯につきまして、別表の通り一覧にまとめましたのでご覧ください。

教職員各位におかれましては、本計画へのご理解、ご協力をお願いいたします。

今後もお知らせについては随時ポータルサイトを通じて行いたいと考えております。

移転関係決定及び公表経緯

日時	名称	内容
H18.11.28	第640回理事会	120周年記念事業企画部会に将来に向けた大学の長期的、総合的な基本構想を検討するため、「教育施設に関する将来検討委員会」を設置
H19.1.24	第4回創立120周年記念事業準備委員会	水道橋校舎の教育施設としての有効活用について、将来構想の要点であり、創立120周年の時機に検討。
H19.9.7	理事長との事前打合せ	校地・校舎(千歳校舎、並びに水道橋校舎)に関する将来構想について、説明学校法人昭和第一学園に対し、理事長名で等価交換事業による新校舎建設計画に対し共同開発に係る参画申込書の提出を承認
H19.9.28	第1回東京歯科大学の将来構想に関する検討会	校地・校舎(千歳校舎、並びに水道橋校舎)に関する将来構想についての検討
H19.10.1	第1回東京歯科大学の将来構想に関する幹部打合せ会議	将来構想の実現に向けた具体的な進め方の検討
H19.10.15	第2回東京歯科大学の将来構想に関する幹部打合せ会議	将来構想の実現に向けた具体的な進め方の検討
H19.10.19	第1回東京歯科大学の将来構想についての事前打合せ(学長主催)	将来構想の実現に向けた具体的な進め方の検討
H19.11.22	第641回理事会	創立120周年記念事業の一環として、水道橋への移転計画の検討を進めることについて承認。水道橋移転計画(基本構想)の教授会諮問、昭和第一との共同事業、建設、法務・財務コンサルティング委託、設計会社の選定方法、サンコーポルの購入、について決議
H20.2.22	第647回理事会	水道橋移転計画(基本構想)に対する意見提出を依頼
H20.3.11	第538回全体教授会(臨時)	全教授の意見書に基づき水道橋移転計画を承認
H20.3.18	第539回講座主任教授会(臨時)	教授会の審判を報告、水道橋移転計画の審判及び基本構想を決議、設計会社を日本設計に決定
H20.3.21	第648回理事会	同上、サンコーポルの購入について承認
H20.3.28	第213回評議員会	教職員対象の学名譲渡(ブランドデザイン・マスタープランについて)
H20.5.30	第649回理事会	財務・法務コンサルティング業務の委託先を昭和第一に決定
H20.5.30	第218回評議員会	財務・法務コンサルティング業務の委託先を昭和第一に決定したことを報告
H20.6.25	東京歯科大学同窓会会報第364号	理事長・学長名の記事掲載(ブランドデザイン・マスタープランの解説)
H20.6.30	東京歯科大学広報第210号	学校法人が大学の水道橋移転について掲載
H20.7.8	第543回講座主任教授会	東京歯科大学の将来構想決定のための学長諮問部会設置を承認
H20.7.9	第544回講座主任教授会(臨時)	東京歯科大学の将来構想決定のための学長諮問部会委員委員選任を承認
H20.8.25	東京歯科大学同窓会会報第365号	学長・同窓会長の挨拶が記事掲載
H20.10.14	第649回理事会	東京歯科大学の将来構想決定のための学長諮問部会からの審判報告
H20.12.3	第652回理事会	神田校舎付土地取得、昭和第一との共同事業契約を決議
H20.12.24	ポータルサイト「教職員への移転関係報告(1)」	神田校舎付土地取得、昭和第一との共同事業契約
H21.1.12	第550回講座主任教授会	「東京歯科大学の将来構想」及び大学移転推進会の設置を承認
H21.1.22	ポータルサイト「教職員への移転関係報告(2)」	水道橋校地(予定)の地図掲載

H21.1.27	第654回理事会	西神田土地取得を決議
H21.2.17	第553回講座主任教授会	水道橋移転第一次計画に関する提案作成メンバーを指名
H21.2.25	東京歯科大学同窓会会報第260号	移転関係報告記事掲載(神田区西神田土地取得、短期一審との共同事業解消)
H21.2.28	東京歯科大学広報第234号	学長による「東京歯科大学の将来構想」掲載
H21.3.19	第656回理事会	三神町二丁目(1)パークビル事業及び西神田土地(サンヨービル)の購入完了を報告
H21.3.31	第220回評議員会	移転に関する現状報告、第653回、第654回、第656回理事会事項報告
H21.5.19	第101回学務協議会	移転計画推進委員会の設置及びメンバーを決定
H21.5.19	第1回移転計画推進委員会	移転の基本計画(校地概要、校舎の用途案)、投資計画の概要、基本設計に移ることについて説明、教務会に諮ることを承認
H21.5.19	第557回講座主任教授会	移転の基本計画(校地概要、校舎の用途案)、投資計画の概要、基本設計に移ることについて承認、移転計画推進委員会の設置及びメンバーについて承認
H21.5.29	第657回理事会	移転の基本計画、スケジュール、投資計画の概要、基本設計に移ることについて承認、大学移転審議会の設置及び委員の選任について承認、いしづかビル土地建物取得を決議、西神田土地引渡しを受けたことを報告
H21.5.29	第221回評議員会	移転の基本計画、スケジュール、投資計画の概要、基本設計に移ることについて承認、大学移転審議会の設置及び委員の選任について承認、いしづかビル土地建物取得及び西神田土地引渡しを受けたことを報告
H21.6.15	ポータルサイト(教職員への移転関係報告(3))	移転審議会の設置、移転の基本計画、スケジュールについて、第657回理事会、第221回評議員会にて承認を受けた内容を掲載
H21.6.16	第558回講座主任教授会	大学移転に係る各種討削会の設置を承認
H21.6.25	東京歯科大学同窓会会報第270号	移転関係報告記事掲載(神田区西神田土地からの搬入)
H21.6.30	東京歯科大学広報第237号	学長による「水道橋移転と歯学部志願者動向」掲載、移転審議会の設置、移転の基本計画、スケジュールについて、第657回理事会、第221回評議員会にて承認を受けた内容を掲載
H21.7.25	移転に係る教職員説明会	教職員(講師以上)、専任教員(専任主任以上)を対象に、基本計画等を説明(於: 水道橋校広文堂ビル土地建物の購入、外かん道に係る起業地の売却及び代替地の取得(市川)、移転計画に係る校地への用途変更を承認)
H21.7.28	第658回理事会	学長・同窓会長の座談会記事掲載、移転審議会の設置、移転の基本計画、スケジュールについて、第657回理事会、第221回評議員会にて承認を受けた内容を掲載
H21.8.25	東京歯科大学同窓会会報第271号	学長・同窓会長の座談会記事掲載、移転審議会の設置、移転の基本計画、スケジュールについて、第657回理事会、第221回評議員会にて承認を受けた内容を掲載
H21.10.3	移転に係る教職員説明会	千葉校舎教職員を対象に、基本計画等を説明(於: 千葉校舎)
H21.10.20	第2回移転計画推進委員会	各種討削会からの提案を元に取りまとめた基本計画(案)について、教授会で意見を聴取の上、移転審議会、理事会等の上程することを承認
H21.10.20	第561回講座主任教授会	各種討削会からの提案を元に取りまとめた基本計画(案)について資料を配布、10月末までに意見を聴取し、委員の教授会に報告する旨説明
H21.11.4	移転に係る教職員説明会	水道橋校舎教職員を対象に、基本計画等を説明(於: 水道橋校舎)
H21.11.11	第1回大学移転審議会	各種討削会からの提案を元に取りまとめた基本計画(案)について、教授会で聴取された意見を踏まえ審議、理事会を上程し、基本設計に移行することを承認
H21.11.17	第562回講座主任教授会	基本計画(案)を承認、理事会(案)を上程し、基本設計に移行することを承認
H21.11.19	第659回理事会	基本計画(案)が教授会、理事会で承認されたことを報告
H21.11.24	ポータルサイト(教職員への移転関係報告(4))	基本計画(案)が教授会、理事会で承認されたことを報告
H22.1.26	第3回移転計画推進委員会	基本設計の進捗について報告
H22.1.26	第2回大学移転審議会	基本設計の進捗及び事業員の試算について報告
H22.3.31	第222回評議員会	移転計画の現状について報告
H22.4.25	東京歯科大学同窓会会報第275号	学長・同窓会長の座談会記事掲載
H22.5.18	第571回講座主任教授会	移転部会統轄部の設置(H22.6.1付)
H22.6.15	第4回移転計画推進委員会	基本設計(平面図、立面図)について報告
H22.6.15	第572回講座主任教授会	基本設計(平面図、立面図)に対して意見募集、移転部会統轄部の検討事項について報告
H22.6.23	ポータルサイト(教職員への移転関係報告(5))	基本設計に対して教授会にて意見募集を行っている旨の報告
H22.7.6	第573回講座主任教授会	移転部会統轄部において、各種討削会ごとにワーキンググループを立ち上げる旨の報告
H22.8.7	第664回理事会	基本設計の現状を報告、水道橋移転計画に係る建築請負業者の選定方法を決定
H22.8.7	移転に係る教職員説明会	教職員、法人役員、同窓会役員等を対象に、移転計画大学長の講演及び基本設計からの説明
H22.9.7	第574回講座主任教授会	移転部会統轄部における、各部会長及び部員の名簿を承認
H22.9.29	ポータルサイト(教職員への移転関係報告(6))	基本設計に対して提出された意見を基に、実施設計(施工者入札及び免注用の図面作成)の段階に入った旨の報告
H22.10.4	第665回理事会	建築請負業者1次選定を実施
H22.11.9	第3回移転計画推進委員会	移転部会統轄部からの検討経緯中間報告

《速報》

教職員への移転関係報告 (8)

平成23年1月24日

教職員 各位

理事長 熱田 俊之助

学 長 金子 讓

大学移転計画に係る建築請負業者の決定

大学の移転計画については、平成18年より検討を開始し、昨年8月開催の第664回理事会で(株)日本設計作成の選考資料を基に、建築請負候補業者10社を選定、10月開催の第665回理事会で6社に絞り込み、11月に現場説明を実施、12月に候補業者から見積書の提出を受けました。

当日は、理事長、学長の立会いにより見積書を開封し、その後、日本設計の管理の下、見積り内容の精査、詳細確認が行われ、本年1月20日に査定結果報告が本法人に提出されました。

今般、(株)日本設計の査定結果報告を基に建築請負業者の選定について、第667回理事会、並びに第224回評議員会(1月22日(土)開催)で審議が行われ、以下の建築請負業者が決定しましたのでお知らせします。

選定業者：清水建設 株式会社

教職員各位におかれては、今後とも本計画の推進にご協力をお願いいたします。

国際渉外部レポート

■ 韓国・延世大学校歯科大学より見学生来校

平成23年1月6日(木)より1月18日(火)までの約2週間、延世大学校歯科大学の第5学年、Oh Ji-hyeon(オ・ジヒョン)さん、Park Ji-hye(パク・ジヘ)さんの2名が、延世大学校のElective Study Program参加学生として来校した。

3回目となる今回は、事前に基礎系・臨床系の講座から学生に5講座以上を選択させ、日程調整を行ったのち、口腔外科学、有床義歯補綴学、歯周病学、スポーツ歯学、クラウンブリッジ補綴学の5講座に受け入れを行っていただいた。

今回が初めての来日という2人は、初日の1月6日に日本の伝統文化を象徴する武道始めと鏡開きに参加した。各講座のプログラムでは、豚の顎骨を使った実習などを初めて経験した。また、本学の第5学年の学生に同行して臨床実習の見学も行った。これらの充実したプログラムの内容に感激していた。週末には都内を観光し、初めての日本の風土や味に触れて楽しんでいる様子であっ

た。最終日前日の1月17日(月)に学長室を訪問し、金子讓学長より修了証を受領した。

これは、延世大学校の学生に毎回好評を得ているプログラムである。国際渉外部としては今後も関係各位にご協力いただき、延世大学校との学生交流を担当している学生部・課とともに、参加希望に対し対応してゆく所存である。



修了証の受領後、学長室にて記念撮影：平成23年1月17日(月)

2010年の回想 &2011年の抱負

阿部 潤也 (図書課 係長)

世界527位。東京歯科大学の学術成果を世界に発信するために構築された、「いるか」でお馴染み(?)『東京歯科大学学術機関リポジトリ』の昨年7月時点でのランキングです。このランキングはスペインはSpanish National Research Councilの研究室から発信されています。「ランキングなんてリポジトリの本質には関係ねーよー」と思いながらも、そこはやっぱり気になるものです。と、この原稿を書いている間に本年1月時点でのランキングが発表されてるではありませんか。その結果は…なんと…359位に1168位のジャンプアップで、ちょっとしたお年玉気分でした。学術情報流通の発展のため、本学学術成果発信のため、ランキング向上のため(オイ!)、リポジトリの充実のために力を入れていきますので、今後ご協力よろしくをお願いします。

内田 篤志 (大学事務局教務課 事務員)

入職して2年目を迎え、窓口業務や出席関係、授業準備といった業務の他に、新たに2つ自分が担当する業務が加わった。授業で用いるテキストの作成業務と広報である。テキスト作成に関しては、1年次に開講される「人間生物学」のテキストに限定されるが、講義要旨作成依頼に始まり、要旨の校正作業、業者との打ち合わせから完成に至るまで全工程に携わった。作成に関わったテキストが実際に授業で使用されているのを見ると、感慨深かった。広報に関しては、文章を書くことが極端に苦手な自分がなぜ選ばれたのか今も分らぬまま、提出期限ぎりぎり越えるか越えないかで、担当記事をなんとか書いている状況である。

2011年は、現在担当している業務を完璧にして、さらに業務の幅を増やしていけたらと思う。

江波戸 達也 (市川総合病院庶務課 係長)

1年前は、当原稿を依頼する立場でしたが、今度は依頼されることとなり、なんだか不思議な気分です。昨年4月、市川総合病院に約10年ぶりに



戻ってきました。まだまだ戸惑うことも多く忙しい毎日ですが、心強い仲間を支えられ、なんとか仕事をこなしています。

さて、今年私は本厄です。正月にはこれでもかってぐらい厄除けをしましたが、その後にひいたおみくじは末吉。厄除けの効果は?ですが、細かいことはあまり気にせず毎日を楽しく過ごしていきたいと思っています。

大神 浩一郎 (有床義歯補綴学講座 助教)

私は4月に機会を得まして大学に復帰いたしました。2010年という年は、日本航空の経営破綻や尖閣諸島問題など暗いニュースがあり、その一方チリ鉱山事故で69日ぶり33人全員救出、ノーベル化学賞を日本人2人が受賞、7年ぶりの「はやぶさ」の帰還などが明るいニュースも豊富にありました。私自身振り返ると、12年ぶりに補綴科の歓迎会で新人芸をやったことが一番のニュースでした。感想はというと12年前とは違い、恥ずかしさもあり…でも新鮮な気分もありました…。また昨年は、大学創立120周年にあたり「継承と発展」をテーマに掲げた記念すべき年でした。今年はず、学生への教育はもちろんのこと、臨床技術・知識を後輩達へ、より向上が得られる指導を行うこと、そして研究は歯科医療の発展に貢献ができ、自信をもって答えられるテーマを持ち進めること、これを踏まえた充実した1年を過ごしたいと思います。

加藤 哲男 (化学研究室 教授)

11月に化学研究室教授を拝命し、責任の重さを感じています。しっかりと職責が果たせるよう、務めていきたいと思っています。

2010年は、1学年Bクラスの主任を仰せつかり、また講義・実習にと1年生と過ごす時間が長い1年間でした。クラス主任として注意などをした後に、「わかりましたか?」と訊ねると、大きな声で「はい、わかりました」と返事があり、おもわず笑ってしまったこともありました。2011年は、まずは1年生たちが後期定期試験・総合学力試験を乗り越えて全員2年生になることを願っています。それから、水道橋移転に向けて準備をしながら、教育に研究に十分に組み込んでいければいいなと思っています。

金子 智史 (千葉病院医事課 事務員)

昨年4月、市川総合病院医事課から千葉病院医事課に異動になりました。同じ医事課ではあっても、業務内容は異なり、最初は慣れない環境で戸惑いまわりの方々にお手間をかけ、ストレス?を溜めさせるような事もあったかと思います。昨年はこれまでは経験できなかった臨床研修歯科医、地域連携関係等の医事課とは少し離れた業務にも携わる事が非常に勉強になりました。また1年目ということもあり日々新しい知識を先輩方に教えていただき、毎日「ありがとうございます」を口癖のように言っておりましたが、来年は少しでも言われる側になれるよう少しでも前進して行きたいと思っています。現在の職場は特に血液型で性格を判断される事があります。私の血液型の場合、様々な行為にたいして矢面にたたされる場合が多々ありますが、このような批判を払拭し名誉挽回できるように自己研鑽したいと思っています。

**佐藤 正樹** (口腔科学研究センター PF)

東京歯科大学での研究者生活がスタートしてから約1年、本当に多くの方々を支えられて今日に至りました。人との出会いは一期一会といいますが、昨年の私に限ってはまさに一期十会でした。理学部の生物学科で網膜の研究だけに専念してきた私にとって、歯学は全く未知の領域でした。しかし生理学を通して学内外の多くの先生方とお話をさせていただけるチャンスをいただき、受託研究員を経てPFに採用されるまでのわずか数か月間に、数々の叱咤激励をいただけたことは私にとって生涯の宝となりました。今年は干支の兔にあやかり、昨年以上に大躍進できるよう、一人前の科学者として多くの研究にチャレンジしていきたいと思っています。

高橋 希望 (歯科衛生士専門学校 学生)

2010年は4月から相互実習、10月になると臨床実習が始まりあっという間に過ぎた1年でした。そして今まで以上に、この学校に入学して出会えた友人や、先生方、恵まれた環境にとっても感謝した年でもありました。臨床実習で新たな科を回る度に、緊張や不安(ドキドキ・ビクビク)で押しつぶされそうですが、病院スタッフのみなさんにご指導頂きながら学んでいます。

2011年は成人式を迎えることもあり、自分が将来どのような歯科衛生士を目指すかを見つけたいです。また、残された1年半の学生生活の中で一つでも多くのことを学ぶために、臨床実習を通してご指導して頂いたことを活かし、もっと積極的に貪欲に実習に臨み、少しでも多くのことを吸収しようと思っています。

武田 峰子 (市川総合病院看護部 業務担当副看護部長)

2010年、看護部の主な事業として、前半は1月1日に更新した電子カルテシステム(看護支援・看護管理システム)の順調な稼働に向けて、院内・看護部内の委員会活動を通して、調整に奔走しました。後半は、2011年3月に受審する病院機能評価Ver.6の準備に向けた取り組みを中心に活動を展開しています。

看護部は2009年4月にこれまでの看護部組織を見直し、新たに3人の副看護部長(総務担当・教



育担当・業務担当)が配置となり、それぞれが担当する業務を通して、きめ細かい看護の提供に向けて努力しているところです。病院を構成する人員の半数以上を占める看護部は、これからも患者さんにより添い、看護で選ばれる病院を目指して看護師確保、業務改善、環境整備等に精進していきたいと考えております。

田辺 耕士 (口腔科学研究センター PF)

大学院卒業後、研究支援の職に就いて今年で2年になります。昨年は自分にとって全く初めての分野であったため、戸惑うことも度々ありました。しかし多くの先生方や研究技術員の方たちに実験の手法を教えて頂くことを通じて、実験の楽しさや難しさ、後に影響する実験のポイントといった事を教えて頂くことができました。今年は教えて頂いたことを生かしつつ新たな手法や分野を勉強して、より良い結果に結びつけていけるよう精進していくつもりです。

野口 沙希 (市川総合病院 オーラルメディシン・口腔外科学講座 大学院生)

2007年4月にオーラルメディシン・口腔外科学講座の大学院生となり、4年が経過しようとしています。2010年は私にとって非常に思い出深い年となりました。4月には人生で初めて海外学会で発表させていただいたり、5月には120周年の東京歯科大学学会総会で発表をさせていただいたり、非常に貴重な経験をさせていただきました。また、7月には学位審査を終えることができ、入局後もっとも充実した1年となりました。しかしながらこれは、山根教授を初めとした医局の先生方の協力があったからだと思います。

また、講座としても2010年10月16日から18日

にかけて、第55回(社)日本口腔外科学会総会・学術大会の主管を務め、OBの先生方、他講座の先生方にも協力いただき学会は大成功をおさめ、これもまた非常に貴重な経験となりました。

充実した2010年に満足せず、2011年は臨床、教育、研究にあたり、貴重な経験を重ねるとともに多くのことを吸収していきたいと思っています。

野々村 絢子 (学生 第4学年)

2010年はゴルフ部の主務と会計を担当して必死だった。「もうやだ。でもそんなこと言えない。なんとかしなきゃ。なんとかなる。」と毎日思い込み、同級生と2人で25人もの部員をまとめていた。次から次へと湧いてくる仕事のせいで、正直毎朝学校に行くのが憂鬱だった。けれども頑張った甲斐あって後輩や先生方との接し方、社会に出てから大切な事を沢山学ぶことが出来た。また、学生課の方々とも接する機会が多くなりとても仲良くして頂いた。

更に5月22日(土)に帝国ホテルで行われた120周年記念式典には、学年代表として出席させて頂き貴重な経験をすることが出来た。2011年からは5年生となり登院が始まる。不安な気持ちもあるが、これも自分が成長するチャンスだと思い、今まで学んだことを最大限いかして様々なことを吸収し頑張りたいと思う。

原 正樹 (法人事務局庶務課 係長)

本学が創立120周年を迎えた昨年は、様々な記念事業が開催されました。中でも三笠宮同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、盛大に行われた記念式典・祝賀会が強く印象に残っています。振り返るとあつという間の一年であったように思えますが、120回こつこつと積み重ねてきたのだと、改めて感慨深くも感じます。とは言え、ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。今年はいよいよ水道橋新校舎の建設が始まります。東京歯科大学の歴史の中でも特記されるであろうこの一大事業が円滑に進むよう、微力を尽くしたいと思えます。

私事ですが、昨年の4月に産まれた娘が、最近自力で立ち上がる練習を始めています。なんと言いますか、やっぱり一年って早いですよね。

**平田 創一郎** (社会歯科学研究室 准教授)

私が東京歯科大学に赴任してから約5年、担当している科目のカリキュラムの手直しをしなかった年はなく、2010年も比較的大きな変更を加えました。また、2009年末から始まった「大学教育・学生支援推進事業」【テーマA】も本格始動し、2010年度は教育の一層の充実を図って参りました。一方、4月に准教授を拝命し、研究活動の拡充も図ろうと意気込んでいた矢先の6月に、教務副部長を拝命いたしました。本学の120周年という節目の年に私自身にも大きな転機が重なり、毎日の仕事のリズムがつかめぬまま、ずるずると半年が過ぎ去ってしまったように思います。2011年こそは心機一転、研究にも十分時間が割けるように生活習慣を改めたいと考えております。

山口 紗代子 (大学事務局庶務課 事務員)

創立120周年という記念すべき年に、東京歯科大学へ入職しました(小学校時代も在学中に創立120周年を迎えたので、「120周年」に何か縁を感じます)。周りの方々はとても親切で温かく、周囲の方々に「感謝」の一言に尽きる1年でした。本当にありがとうございました。

学生時代とは大幅に異なり、通勤時間が長いた

め起床時刻は毎朝5時台。今ではそんな生活にもすっかり慣れ、休日でさえも早起きをして、趣味のスポーツや音楽を楽しむようになりました。

今年1年も病気とは縁のない年になるよう、体調管理には万全を期したいと思います。仕事においても、昨年の反省をしっかりと活かすと共に、きちんと知識を吸収して、頼りある職員に早く近づけるよう取り組んでいきたいと思っています。

山根 理恵子 (水道橋病院薬局 主任薬剤師)

正月が過ぎると、東京歯科大にお世話になって丸3年となります。

以前の職場では医科で扱う薬が多いものの、近くには歯科病院もあり、僅かではありましたが歯科でも良く使用する薬も知っていました。実際、こちらに入ってみると薬にとまどうというよりも、保険がらみからくる薬の使用制限に驚きました。それは3年経った今でも日々驚きの連続です。

そんな中、今度は大学自体が水道橋に戻ってくることになりました。薬局の窓口でよく「お水ちょうだい。」「どこか、喫茶とかする所はないの?」と言われます。薬を飲むお水に関しては、現在は洗口コーナーを紹介してご利用頂くようにしています。ただ、改装後は外来処方を出院に出す予定とのことでこの説明はしなくてよくなるかと思えます。ただ、喫茶とかは?といわれると困ります。駅に近すぎて喫茶店のようなところも無く、待ち時間にビルの外にも出られずで患者さんも不自由なさっていることと思います。コーヒーの香りで緊張もほぐれて、癒し効果もあるのでは?などと勝手に思っていますがいかがでしょうか?このような例に限らず、患者さんにもより良い環境で治療を受けて頂くお手伝いができればと思っています。

学内ニュース

■平成23年武道始め・鏡開き開催

平成23年1月6日(木)午後4時より千葉校舎体育館第3体育室において、金子 譲学長、佐藤 亨 学生部長並びに武道系クラブ部長や関係教職員を迎え、日本古来の伝統行事である「平成23年武道始め」が古澤春佳(3年、弓道部主務)の司会により挙行された。

金子学長、井上 孝少林寺拳法部部长が挨拶を述べた後、柔道部、弓道部、剣道部、空手道部、少林寺拳法部の順に演武が行われ、緊張感漂う切れのある演武が披露された。

武道始め終了後、厚生棟1階食堂に会場を移し「平成23年鏡開き」が行われた。ほとんどの各クラブ部員が餅つきに参加し、出来たてのお餅を、

きな粉、大根おろし、納豆で美味しく食べ、あつという間に胃袋へ収めてしまった。

また、武道始め・鏡開きには、来日中の延世大

学校歯科大学の学生2名にも出席して頂き、日本の伝統・文化に触れる良い機会となった。



気合いの入った演武を披露する少林寺拳法部:
平成23年1月6日(木)、体育館1階 第3体育室



渾身の力を込めて:平成23年1月6日(木)、厚生棟1階 第1食堂

■木村翔馬君(第4学年) 第66回国体冬季スキー競技会出場決定

平成23年1月15日(土)新潟県上越国際スキー場において第66回国体冬季スキー競技会千葉県選考会が実施され、木村翔馬君(4年)がスキー アルペン ジャイアントスラロームという種目で優勝し本戦出場権を勝ちとった。

「北海道出身の私は1年生の時に北海道選考会に出場したのですが、出場権を得ることが出来ず次年に千葉県選考会に出場したところ規定により出場経験者が他県でエントリーする場合は2年

間出場できないということがわかりました。そんな悔しい気持ちをバネにこの2年間トレーニングを継続してきたお陰で、本戦出場を決められたことは、自分の中で1つ人間的に成長できた気がします。

第66回国体冬季スキー競技会が平成23年2月12日(土)に秋田県鹿角市で開催されます。千葉県の代表、東京歯科大学の代表として恥じない成績を残せるよう頑張ってきます。」

木村翔馬(4年)

公式記録、大回転 千葉県スキー連盟 公認		2011/1/15(土)		GS AM			
大会名		第66回国体冬季スキー競技会千葉県選考会					
会場	上越国際スキー場	大沢コース	(S A J 公認)				
ジュリー	栗栖 裕之	テクニカルデータ					
技術代表	阿久津昭夫	スタート地点標高	630m				
主審	相馬 明	ゴール地点標高	380m				
競技委員長	高橋 豊平太	標高差	250m				
競技副委員長		旗門数(ターン数)	36(34)				
コースセッター	Bコース 新潟県 相馬 明	天候	雪				
フォアランナー	A 新潟県 中沢 佑大	雪質	soft				
	B 新潟県 小林 和	気温(ゴール)	0				
	C 千葉県 百木 佑大	気温(スタート)	0				
		スタート時刻	10:30				
男子A組		F値870					
順位	BibNo.	性別	氏名	CNo.	所属	タイム	S.A.Cポイント
1	284	男A	木村 翔馬		学連(東京歯科大学)	01:05.21	0.00
2	285	男A			学連(東海大学)	01:05.91	9.34
3	281	男A		112	ひばりスノーボードクラブ	01:07.43	29.62
4	286	男A		49	エタニティ・フライン	01:07.91	36.02
5	282	男A			学連(国士館大学)	01:09.58	59.30
6	283	男A			学連(関西学院大学)	01:10.09	65.11
7	287	男A		120	エタニティ・フライン	01:10.39	69.11
8	271	男A		17	船橋スキークラブ	01:10.74	73.78
9	288	男A		61	高体連	01:11.69	86.45
10	292	男A		120	エタニティ・フライン	01:12.64	99.13
	291	男A		120	エタニティ・フライン		DQ
オ・フシ	290	男A		120	エタニティ・フライン	01:13.48	110.33
オ・フシ	293	男A		6	柏市スキー連盟	01:16.20	146.62
オ・フシ	289	男A			学連(国際武道大学)	01:16.76	154.36

図書館から

■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

井上 孝 [ほか] 編著 歯科医院で気づく・見落とさない! 色と形からみる口腔粘膜病変、医歯薬出版 2010

ビッセン宮島弘子編著 トーリック眼内レンズ、南山堂、2010

山根源之、外木守雄著 抜歯がうまくなる臨床のポイントQ&A、医歯薬出版 2010

澤木康平 [ほか] 編集 薬理学、クインテッセンス出版 2010

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のときには、図書館へ、ご一報くださいますようお願いいたします。

■Cochrane Library講習会開催

平成23年1月20日(木)午後6時より、千葉校舎第1教室において、ワイリージャパン・笠原裕治氏を講師にお迎えし、Cochrane Library講習会を開催した。当日の参加者は26名であった。

Cochrane Libraryは診療で必要とされるエビ

デンスを提供する、最も信頼すべき情報源と言われており、コクラン共同計画で作成されたシステムティックレビューのデータベース等を提供している。システムティックレビューやデータベースの概要とともに、実際の操作方法等もあわせてご説明いただいた。

講習会内でご紹介いただいたA.L. Cochrane著『Effectiveness And Efficiency: Random Reflections on Health Services』は、訳本である『効果と効率：保健と医療の疫学』（請求記号: 110/C82）を当館で所蔵しているため、是非とも利用していただきたい。



講演される笠原氏:平成23年1月20日(木)、千葉校舎第1教室

歯科衛生士専門学校ニュース

■歯科衛生士専門学校平成23年度一般入学試験実施

平成23年1月22日(土)東京歯科大学歯科衛生士専門学校の一般入学試験が実施され、学科試験(英語・国語)および面接試験が行われるとともに、24日(月)には入試選考委員会が開催され、合否の結果が本人宛に郵送された。

平成23年度の一般入試志願者数は、15名(本県出身10名、他都道府県出身5名)で、昨年より若干の減少が見られたが、募集枠を超えるものであった。これは、昨今の経済状況と就職難から国家資格取得(本校国試合格率100%)を目指す学生の増加と、高い就職率(本校就職率100%)が影響しているものと考えられる。

今年度も昨年度に続き、一般入試の学科試験から数学を除き、英語・国語の2科目のみの試験を

行い受験しやすい環境を整えている。さらに、学校説明会の開催時期の前倒しや回数の増加、積極的な学校訪問の実施、ホームページの刷新、ポスターの製作・配付などを試みており、受験生の確保に何らかの貢献をしたものと思われる。

歯科衛生士専門学校にとって、厳しい情勢が続くなかで、レベルの高い歯科衛生士教育を行うのに必要な優秀な学生を継続的に確保するためには、今後も地道な努力が必要であると考えている。

人物往来

■国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

- 太陽歯科衛生士専門学校(学生52名、教員3名)
平成22年12月9日(木)解剖実習室・病院見学
- 聖和看護専門学校(学生38名、教員6名)
平成22年12月10日(金)解剖学教室見学
- さいたま柔整専門学校(学生111名、教員5名)
平成23年1月27日(木)解剖標本室見学

■海外出張

- 白石 建教授、青山龍馬助教(市病・整形外科)
第38回アメリカ頰椎外科学会に参加、および発表のため、平成22年12月1日(水)から5日(日)まで、アメリカ・シャーロットへ出張。
- 阿部伸一教授(解剖)
13th Congress of International Congress of Oral Implantologistsにて招待講演を行うため、平成22年12月2日(木)から4日(土)まで、中国・厦門へ出張。
- 篠崎尚史講師・センター長(市病・角膜センター)
ベトナム眼科学会に参加、および国立眼科病院、ハノイ医科大学、厚生省訪問のため、平成22年12月7日(火)から15日(水)まで、ベトナム・ハノイへ出張。
- 白石 建教授(市病・整形外科)
第16回ベトナム脊椎外科学会にて招待講演のため、平成22年12月9日(木)から13日(月)まで、ベトナム・ホーチミンへ出張。

- 山根淳一助教(市病・整形外科)
第16回ベトナム脊椎外科学会にて講演、およびライブサージェリーの実演のため、平成22年12月11日(土)から21日(火)まで、ベトナム・ホーチミンへ出張。
- 眞木吉信教授(社会歯科)
The 2nd Awarding Ceremony of Lion Oral Healthにて講演のため、平成22年12月13日(月)から16日(木)まで、タイ・バンコクへ出張。
- 吉成正雄教授(歯科理工・口腔科学研究センター)、野呂明夫講師(千病・総合診療科)
19th International Symposium on Processing and Fabrication of Advanced Materialsに参加、および発表のため、平成23年1月12日(水)から18日(火)まで、ニュージーランド・オークランドへ出張。
- 白石 建教授(市病・整形外科)
International Society for Minimal Intervention in Spinal Surgeryにて招待講演のため、平成23年1月26日(水)から31日(月)まで、スイス・チューリッヒへ出張。
- 高木多加志准教授(口腔外科)
AOCMF Tips for Trainers Courseに参加のため、平成23年1月28日(金)から30日(日)まで、韓国・ソウルへ出張。
- 高野正行准教授(水病・口腔外科)
AOCMF Tips for Trainers Courseに参加のため、平成23年1月28日(金)から30日(日)まで、韓国・ソウルへ出張。

大学日誌

平成22年12月

- 1 (水) リスクマネージメント部会
ICT会議
輸血療法委員会
臨床検査部運営委員会
全体課長会
防火・防災安全自主点検日
口腔健康臨床科学講座会(水病)
- 2 (木) 感染制御委員会(市病)
- 3 (金) 大学院運営協議会
- 4 (土) 大学院入学試験(I期)
歯科衛生士専門学校1年生前期再試験
市川市との災害時医療救護活動訓練(市病)
- 6 (月) 教務部(課)事務連絡会
給食委員会
プログラム責任者・副責任者会議
- 7 (火) 平成22年度第1回看護研究発表会(市病)
- 8 (水) 大学院入学試験(I期)選考委員会

- | | | | |
|--------|--|--------|---|
| 8 (水) | 大学院運営委員会
大学院研究科委員会
第320回大学院セミナー
看護部運営会議(市病)
業務改善委員会(市病)
救急委員会(市病)
リスクマネージメント部会(水病)
薬事委員会(水病) | 16 (木) | 一般入学試験 (I期)・大学入試センター利用試験 (I期) 願書受付開始(～1/27)
千葉校舎課長会
業務連絡会
高度・先進医療委員会
部長会(市病)
管理診療委員会(市病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
科長会(水病) |
| 9 (木) | 医療安全管理委員会(市病)
手術室運営委員会(市病) | 18 (土) | 入試ガイダンス[於:水道橋校舎]
歯科衛生士専門学校1年生前期再試験(～25日)
平成23年度第10回看護師採用選考試験(市病)
第2回患者サロン(市病)
午後のコンサート(市病) |
| 10 (金) | 大学院入学試験 (I期) 合格発表
第6回補助金管理運営会議
第321回大学院セミナー
センター試験係員合同説明会
ICT委員会(市病)
木曜会クリスマス会(市病)
感染予防対策チーム委員会(水病) | 20 (月) | 1～4年生前期 追・再試験(～24日)
医療連携委員会
第99回歯科医学教育セミナー
機器等安全自主点検日
NSTカンファレンス・勉強会(市病) |
| 13 (月) | 病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
臨床教育委員会
医局長会
医療安全研修会
情報システム管理委員会
歯科衛生士専門学校3年生卒業試験(・15日)
院内禁煙講演会(市病) | 21 (火) | データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
医療サービスに関する検討会 |
| 14 (火) | 粗大ゴミの廃棄(～16日)
臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
第322回大学院セミナー
歯科衛生士専門学校教員会
平成22年度第2回看護研究発表会(市病)
褥瘡対策委員会(市病)
給食委員会(水病) | 22 (水) | 予算委員会
看護部運営会議(市病)
データ管理者会議(水病)
診療録管理委員会・病院連絡協議会(水病) |
| 15 (水) | 学生部(課)事務連絡会
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
臨床検査運営委員会(市病)
CPC(市病) | 23 (木) | 【テーマA】360度評価研修ワークショップ |
| | | 24 (金) | 歯科衛生士専門学校2年生前期再試験(～1/7)
クリニカルパス運営委員会(市病)
災害対策実施部会(市病) |
| | | 25 (土) | 1～4年生冬期休暇(～1/7)
歯科衛生士専門学校学生冬期休暇(～1/7) |
| | | 27 (月) | 電子カルテシステム運用管理委員会(市病) |

28 (火) 仕事納め・学長挨拶(千葉校舎・市病・水道橋校舎)

平成23年1月

5 (水) 仕事始め・学長年頭挨拶(千葉校舎・市病・水道橋校舎)

千葉校舎課長会
臨床実習プログレス作業部会
防火・防災安全自主点検日
口腔健康臨床科学講座会(水病)

6 (木) 6年生第4回総合学力試験(～7日)

武道始め
感染制御委員会(市病)
治験審査委員会・倫理委員会(市病)

7 (金) 予算事務打ち合わせ会

11 (火) 1～4年生授業再開

教務部(課)事務連絡会
プログラム責任者・副責任者会議
歯科衛生士専門学校授業再開
歯科衛生士専門学校臨床実習委員会
褥瘡対策委員会(市病)

12 (水) 大学院入学試験(Ⅱ期)願書受付開始(～2/10)

リスクマネージメント部会
ICT会議
平成22年度第2回自己点検・評価委員会

臨床教授連絡会
医療ガス安全管理委員会
講座主任教授会

人事委員会
総合講義検討委員会

看護部運営会議(市病)

救急委員会(市病)

ICU運営委員会(市病)

リスクマネージメント部会(水病)

薬事委員会(水病)

医薬品安全管理委員会(水病)

医療機器安全管理委員会(水病)

13 (木) 千葉校舎課長会

医療安全研修会

医療安全管理委員会(市病)

手術室運営委員会(市病)

14 (金) 大学院運営協議会

14 (金) ICLS講習会(市病)

ICT委員会(市病)

感染予防対策チーム委員会(水病)

15 (土) 大学入試センター試験(～16日)

平成23年度第11回看護師採用選考試験(市病)

17 (月) 病院運営会議

個人情報保護委員会

医療安全管理委員会

感染予防対策委員会(ICC)

臨床教育委員会

医局長会

図書委員会

第100回歯科医学教育セミナー

環境清掃日

危険物・危険薬品廃棄処理日

薬事委員会(市病)

東京都エイズ診療従事者臨床研修(第1日目)(水病)

18 (火) 教養科目協議会

共用試験OSCE全体説明会

歯科衛生士専門学校一般入学試験願書受付締切

東京都エイズ診療従事者臨床研修(第2日目)(水病)

19 (水) 基礎教授連絡会

大学院運営委員会

大学院研究科委員会

CPC(市病)

20 (木) 業務連絡会

高度・先進医療委員会

Cochrane Library講習会

機器等安全自主点検日

部長会(市病)

医療安全管理委員会(水病)

感染予防対策委員会(水病)

個人情報保護委員会(水病)

科長会(水病)

21 (金) 業務改善委員会(市病)

22 (土) 歯科衛生士専門学校一般入学試験

理事会(法人)

評議員会(法人)

24 (月) 医療連携委員会

4年生共用試験CBT・OSCE事前説明

- | | | | |
|--------|---|--------|---|
| 24 (月) | 歯科衛生士専門学校一般入学試験選考委員会
地域連携委員会(市病)
教職員研修会(水病) | 26 (水) | 病院連絡協議会・診療録管理委員会(水病) |
| 25 (火) | 薬事委員会
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会 | 27 (木) | 一般入学試験 (I期)・大学入試センター利用試験 (I期)願書受付締切管理診療委員会(市病) |
| 26 (水) | 学生部(課)事務連絡会
看護部運営会議(市病)
データ管理者会議(水病) | 28 (金) | クリニカルパス委員会(市病)
災害対策実施部会(市病) |
| | | 31 (月) | 1～4年生後期授業終了
NST勉強会(市病)
電子カルテシステム運用管理委員会(市病) |

東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充（委員長）

石塚順子 井上直記 上田貴之 内田篤志 王子田 啓 金安純一 狩野龍二 齋藤 淳 椎名 裕
新谷益朗 高橋俊之 中村弘明 日塔慶吉 旗手重雅 前田健一郎 百崎和浩
（平成23年1月現在）

編集後記

金子 譲学長の年頭のご挨拶の中に「襷を繋ぐ」という言葉がありました。120年を超える「継承と発展」の中で、今の私たちがつないでいる襷にはどんな思いが込められているのでしょうか。一枚の汗にまみれた襷はただの布切れかもしれません。でも、それを手のひらに受けたひとには、それをつなげた人達ひとり一人の思いが、大きな力となって伝わっていきます。いのちの遺伝情報が広大な地図を作りあげていくように、東京歯科大学の遺伝子の流れの中に、今、ここにいる私たちの一日一日が、確かに刻み込まれていっています。150周年となる次の30年後には、どんな地図ができていのでしょうか…。

「2010年の回想&2011年の抱負」のなかには、うれしかったこと、楽しかったこと、恥ずかしかったこと、大変だったこと…、言いたいこと、伝えたいこと、聞いてもらいたいこと、気づいたこと…、そして、自分への宣言。1年間のそれぞれ体験とともに、この時を共有している東京歯科大学の個性あふれるいろいろな思いがつまっています。

「地域がん診療連携拠点病院」に指定されている市川総合病院で、昨年10月から始まった「患者サロン」。治療中のがん患者さんとその家族に集いの場を提供することを目的として、2か月に1回、偶数月の第3土曜日に開かれるとのこと。病院内で働くさまざまな職種の人たちの暖かな思いと、患者さんたちの「よかったよ」との声に支えられて、息の長い活動になっていくことでしょう。

4年生の木村翔馬くんが、第66回国民体育大会冬季スキー競技会の千葉県選考会で、社会人や他大学の選手を圧倒的なタイムで押さえて優勝し、念願の冬季国体にアルペン・ジャイアントスラロームの代表として出場しました。規定により参加できなかった2年間の思いを胸に出場した本大会では、ベストをつくすすばらしい滑降となったことでしょう。ここからの拍手を送ります。

東京歯科大学広報の創刊は昭和32年4月で現在246号。今は年6回発行されており、発行部数は3,500部となっています。120周年の大学にくらべれば、わずか50年余りの歴史しかありませんが、千葉、市川、水道橋をつなぐコミュニケーション・ツールとして、学内の四季折々の出来事や“今”を、大学広報編集委員の目を通して記録しています。まずは手にとって、パラパラとページを開いてみてください。本当の価値は、時間の積み重ねの中にあるのかも知れません。大学のポータルサイトには、平成17年213号からのバックナンバーが掲載されていますので、こちらも、ぜひ。

（広報・公開講座部長：橋本貞充）



「雪の日の河津桜の花とつぼみ」（千葉校舎教養棟前）
咲き始めた河津桜の花の向うに、少しだけ積った立春の雪…。三寒四温。季節の襷がつながります。